

ぽぽデイだより NO.133 令和6年3月号

社会福祉法人 ほっとスマイル
ぽぽデイ名塩駅前 669-1133 西宮市東山台 1-1(1階) TEL0797-62-1165

施設長より

3月1日のNHK関西ローカルニュース「ほっと関西」で、放課後等デイサービスについて取り上げられていました。NHKが全国の自治体に問い合わせをすると、放課後等デイサービスで、この5年間に32人もの子どもが行方不明になったとのこと。その原因として、放課後等デイサービスの体制や報酬の仕組み、研修が行われないという質の問題、事業所の閉鎖性や保護者の預かってもらっているという引け目があると大阪公立大学の山縣文治教授が指摘していました。

体制と報酬の仕組みの問題については、以前から痛感するところでした。基準配置は子ども10人に対して2人、加配を入れて3人です。これでは人数が少なすぎるという結論です。

それにしても、行方不明の数字はほんとうにショックでした。しかし、よく聞いてみると、これは、一時不明も含む事業所からの事故報告に基づいた数字のようです。事業所が自治体に自ら報告しないと現れない数字ですから実際はもっと多いということが想像できます。そしてこれは大変危険な数字です。

ほんの一瞬、目や手を離すことが、危険を判断できない子どもの命を脅かすことに直結します。国の基準が変わるのを待つ前に、まずは目の前の子どもの命を守らなければなりません。

私たちが何度も、ヒヤリとすることがありました。その都度、職員間で対策を考えて改善してきましたが、これで絶対と言い切れるわけではありません。「今の基準では子どもの命を守れない」とインタビューに応じた施設長さんの苦悩は私たちの苦悩でもあります。私たちは、まずは基準以上の配置をして安全を優先しています。また、児童発達支援と放課後等デイサービスと、午前午後で人数が分散されていることも手厚く援助できる要因です。

子どもさん一人ひとりの特性や発達により必要な支援の中身と量は違います。今の子どもさんの状態を理解し、監視や拘束でなく、主体性を尊重しながらいかに事故を防ぐかという問題もあります。持続可能な運営と、命を守り、子どもの発達を保障するという質のバランスの中で、常にあり方を模索しています。児童発達支援や放課後等デイサービスは保育等の事業に比べ、本当に運営の難しい事業です。

そんな背景はありますが、現在はベテランの職員群に支えられてとても和やかで楽しい雰囲気の日が続きます。「この様子を保護者の方や地域の人にそっと見ていただきたいな」と思います。子どもたちの心情や人権に配慮するとなかなかそれができなのが残念ですが、安心できる環境の中で、多少の諍いは学習の機会として成長していく子どもたちです。そんな子どもたちを見るのは本当に嬉しいことです。どうぞ、引け目など感じることなく不安なことや思ったことはどんどん伝えていただきたいです。私たちも、常に開かれた事業所でありたいと思っています。

さて、この欄を書くのも最後になりました。4月からは施設長は木村雅哉と交代し、私は理事長職に専念します。しかし、ずっと子どもたちと職員を見守ることは続けていきます。以下に綴られているような子どもの成長の喜びを支えに、保護者のみなさまと苦楽を共にしながら、これからもこの難しい事業の運営を支えていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

児童発達支援 いちご組

大好きなジャンプあそびやゴム跳び・くぐりなどの粗大あそびを構成する『サーキット』あそびがあります。サーキットなので、円を描くように、1つひとつの粗大に取り組みながら進んでいきます。左右に体重移動をしながら進む『飛び石』、落ちないようにバランスを保ちながら進む『一本橋』、その場で跳ぶ『トランポリン』、ご自身の体の大きさをイメージしながらくぐる『トンネル』、両足・両足・パーっと広げる『フラフープ』などを、その日のお子様のメンバーによりコースを変えながら楽しんでいきます。体の動きのしなやかさだけでなく、反時計回りに進んで行く(ぶつからないように)、友だちは抜かさない(友だちを待つ、順番)、友だちがいなくなったら跳ぼう(台からジャンプ)など、簡単なルールも存在しています。体を動かすことが大好きなお子様たちと、あそびながら、ルールも一緒に経験していく楽しいあそび・時間になればと思います。

この一年、今までと一緒に楽しんだあそびを、もう一度設定あそびとして楽しみ、色々な経験を積み重ね、前回とは違った視点や発見、取り組まれる様子を大切にしていきたいと思えます。

放課後等デイサービス

2月13日(火)~22日(木)、2名の実習生を迎えて活動した8日間は、子どもたちにとっても貴重な経験となりました。


初対面では緊張して話せなかったり、照れた表情を見せていた子どもたちも、その後の自己紹介や、引いたカードの質問に答えるトークゲームを通して、自分のことや考えをしっかりと話して知ってもらうことができました。また、期間の後半はポッチャ大会を開き、初挑戦の子どもたちを含め多くの子どもたちが参加をして、ルールのあるゲームをチームで協力しながら楽しむことができました。

すっかり仲良くなった実習生と過ごす最後の日には、『ありがとう』の言葉を入れた絵を自宅で描いて送った子どもや、即席の手作り表彰状を手渡した子どももあり、『感謝』『これからも頑張ってください』の思いをこめて、みんなの拍手で送りました。温かく微笑ましい場面の多かった素敵な8日間、みんなの良い思い出になったことでしょう。

これからも、他者との関わりを大切に、子どもたちを見守っていききたいと思えます。




スタッフの一言



最近の好きな芸能人はカズレーザーさんです。クイズ番組で何でも答えられることを意識されているそうで、とても物知りな方です。広くいろいろなことを知っている方ってすごいなと尊敬します。そういえば、自分が小学生の頃から、雑学が好きだったので、小学生の頃から芽生えた性格は変わらないものだなと感じたりもします。土曜日活動で、雑学クイズもさせてもらい、私の趣味に子どもたちにも付き合ってもらいました。

木村



最近、お手伝いで私自身が楽しませてもらっている野球チームのカラー『緑』をグローブに取り入れたく、紐を一部緑にカスタムしてみました。意外と、かっこよくなり、全紐を、緑に取り替えようと計画中です。小さなこと、一部変化を取り入れることで気分も、ちょっぴり嬉しくなった出来事でした。

井野口

